



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ファンケル

コード番号 4921 URL <http://www.fancl.co.jp>

代表者 (役職名)代表取締役社長執行役員 (氏名)成松 義文

問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員管理本部長 (氏名)島田 和幸

TEL 045-226-1200

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績 (平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	71,885	△6.2	5,551	△17.3	5,443	△19.5	2,758	△10.0
22年3月期第3四半期	76,662	1.9	6,712	37.8	6,760	33.8	3,064	28.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	42.48	42.38
22年3月期第3四半期	49.03	48.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	93,291	78,563	83.8	1,204.04
22年3月期	92,983	77,596	83.0	1,188.32

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 78,185百万円 22年3月期 77,137百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	ー	17.00	ー	17.00	34.00
23年3月期	ー	17.00	ー		
23年3月期(予想)				17.00	34.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	94,000	△5.6	6,600	△27.9	6,400	△30.3	3,000	△30.3	46.20	

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】6ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注） 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

（注） 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
② ①以外の変更 : 無

（注） 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期3Q	65,176,600株	22年3月期	65,176,600株
23年3月期3Q	240,681株	22年3月期	263,985株
23年3月期3Q	64,929,876株	22年3月期3Q	62,505,721株

- (※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

- (※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. その他の情報	6
(1) 重要な子会社の異動の概要	6
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	6
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
第3四半期連結会計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	13
(5) セグメント情報等	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	17

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社は平成22年3月期第4四半期連結会計期間開始日より香港・中国の販売代理店2社を持分法適用関連会社としておりましたが、当第3四半期連結会計期間開始日より当該2社を持分法適用の範囲から除外しております。

なお、業績の状況においては前年同期に当該2社およびその連結子会社3社を連結していたことから、より実態に即した分析を行うため、当該2社およびその連結子会社3社を連結していなかった前提（以下、「旧基準」という。）に組み替えて比較しております。

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、個人消費および設備投資が持ち直してはいるものの輸出は弱含んでおり、生産も輸送機械工業などを中心に減少するなど、足踏み状態が続いております。

当第3四半期連結会計期間の売上高は、化粧品関連事業およびその他が前年同期を下回ったものの、栄養補助食品関連事業が大幅な増収となり、全体では26,109百万円（前年同期比1.3%増）となりました。損益面では、マーケティング費用を増加させたものの、栄養補助食品関連事業の採算性向上などにより、営業利益は2,963百万円（前年同期比2.0%増）、経常利益は2,982百万円（前年同期比1.9%増）、四半期純利益は1,781百万円（前年同期比5.3%増）となりました。

平成23年3月期第1四半期および第2四半期に係る連結経営成績に関する定性的情報については、平成23年3月期第1四半期決算短信（平成22年8月13日開示）および平成23年3月期第2四半期決算短信（平成22年11月10日開示）をご参照ください。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

※第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用しておりますが、セグメント区分および売上高、営業損益の測定方法は従来と同一であります。

① 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は12,992百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

	平成22年3月期 前第3四半期連結会計期間 (旧基準)		平成23年3月期 当第3四半期連結会計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	10,070	77.4	10,061	77.5	△0.1
アテニア化粧品	2,491	19.2	2,524	19.4	1.3
その他	440	3.4	405	3.1	△7.8
合計	13,002	100.0	12,992	100.0	△0.1

	平成22年3月期 前第3四半期連結会計期間 (旧基準)		平成23年3月期 当第3四半期連結会計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	7,020	54.0	7,059	54.3	0.6
店舗販売	4,159	32.0	3,857	29.7	△7.3
卸販売他	707	5.4	668	5.2	△5.5
海外	1,114	8.6	1,406	10.8	26.3
合計	13,002	100.0	12,992	100.0	△0.1

・ファンケル化粧品

平成22年4月にリニューアル発売した「無添加アクネケア」シリーズが好調だったほか、「マイルドクレンジングオイル」も堅調に推移し、前年並みの10,061百万円(前年同期比0.1%減)となりました。

・アテニア化粧品

新発売した新スキンケアライン「メディチューン」および「インナーエフェクター ベーシックスキンケア」が堅調に推移し、2,524百万円(前年同期比1.3%増)と平成21年3月期第2四半期以来、9四半期振りに前年同期に対し増収となりました。

・販売チャネル別

通信販売は7,059百万円(前年同期比0.6%増)、店舗販売は3,857百万円(前年同期比7.3%減)、卸販売他は668百万円(前年同期比5.5%減)、海外は1,406百万円(前年同期比26.3%増)となりました。

営業損益

損益面では、アテニア化粧品の新スキンケアラインの発売によるマーケティング費用の増加により、営業利益は2,422百万円(前年同期比6.0%減)となりました。

② 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は8,129百万円(前年同期比10.6%増)となりました。

	平成22年3月期 前第3四半期連結会計期間 (旧基準)		平成23年3月期 当第3四半期連結会計期間		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	3,339	45.4	3,547	43.6	6.3
店舗販売	1,906	25.9	1,998	24.6	4.8
卸販売他	1,503	20.5	2,001	24.6	33.1
海外	603	8.2	581	7.2	△3.6
合計	7,352	100.0	8,129	100.0	10.6

・製品面

TVCM等のプロモーションを展開したダイエットサプリメント「カロリミット」が計画を大幅に上回る実績を残したことに加え、中高年のお客様向けサプリメントも堅調に推移し、8,129百万円(前年同期比10.6%増)となりました。

・販売チャネル別

通信販売は3,547百万円(前年同期比6.3%増)、店舗販売は1,998百万円(前年同期比4.8%増)、卸販売他は2,001百万円(前年同期比33.1%増)、海外は581百万円(前年同期比3.6%減)となりました。

営業損益

損益面では、ダイエットサプリメント「カロリミット」のTVCMの実施等によりマーケティング費用が大幅に増えたものの、増収効果により、営業利益は911百万円(前年同期比46.0%増)となりました。

③ その他

売上高

その他の売上高は4,986百万円(前年同期比8.1%減)となりました。

	平成22年3月期 前第3四半期連結会計期間 (旧基準)	平成23年3月期 当第3四半期連結会計期間	伸び率 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
発芽米事業	861	757	△12.1
青汁事業	987	921	△6.7
いいもの王国通販事業	2,348	2,345	△0.1
その他の事業	1,227	961	△21.7
合計	5,425	4,986	△8.1

・発芽米事業

通販チャネルの販売不調により、売上高は757百万円(前年同期比12.1%減)となりました。

・青汁事業

主力の「ケールまるごと搾り」が好調に推移したものの、「ビューティグリーン」が前年同期において新発売効果により好調だった反動による減収が影響し、売上高は921百万円(前年同期比6.7%減)となりました。

・いいもの王国通販事業

季節商材の販売が堅調で、売上高は前年並みの2,345百万円(前年同期比0.1%減)を確保いたしました。

・その他の事業

前年同期に肌着の特別セールを実施していたことによる減収が影響し、売上高は961百万円(前年同期比21.7%減)となりました。

営業損益

損益面では、青汁事業の採算性向上などにより、営業利益は23百万円(前年同期比54.5%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産は、前連結会計年度末に比べ307百万円増加し、93,291百万円となりました。この要因は流動資産の減少1,189百万円および固定資産の増加1,497百万円であります。流動資産の減少の主な要因は、現金及び預金の減少3,072百万円、受取手形及び売掛金の増加384百万円、有価証券の増加1,401百万円であります。固定資産の増加の主な要因は、ソフトウェアの取得などによる無形固定資産の増加400百万円、非連結子会社の設立や繰延税金資産の増加による投資その他の資産の「その他」の増加768百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ659百万円減少し、14,728百万円となりました。この要因は、流動負債の減少1,248百万円と固定負債の増加589百万円であります。流動負債の減少の主な要因は、未払金の増加による流動負債の「その他」の増加608百万円、法人税等の支払いによる未払法人税等の減少1,324百万円、賞与引当金の減少548百万円であります。固定負債の増加の主な要因は、資産除去債務の増加478百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ967百万円増加し、78,563百万円となりました。この主な要因は、四半期純利益計上による増加2,758百万円と、配当金の支払いによる減少2,207百万円であります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.8ポイント上昇し、83.8%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は23,840百万円となり、前連結会計年度末より1,170百万円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は3,648百万円(前年同期は7,274百万円の収入)となりました。この内訳の主なものは税金等調整前四半期純利益4,951百万円、減価償却費2,179百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額309百万円などによる増加と、法人税等の支払額3,569百万円などによる減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,526百万円(前年同期は1,783百万円の支出)となりました。この内訳の主なものは、有価証券の売却及び償還による収入5,499百万円、定期預金の払戻による収入1,000百万円などによる増加と、有価証券の取得による支出5,995百万円、有形固定資産の取得による支出1,258百万円、無形固定資産の取得による支出1,085百万円、関係会社出資金の払込による支出600百万円などによる減少であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は2,241百万円(前年同期は469百万円の収入)となりました。この内訳の主なものは、配当金の支払額2,185百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における業績動向を踏まえ、平成22年11月2日に発表いたしました通期業績予想を上方修正しております。

栄養補助食品関連事業においてダイエットサプリメント「カロリミット」が計画を上回る実績を残したことに加え、栄養補助食品関連事業の採算性向上や、全社的に販売費及び一般管理費のコントロールが順調に進んでいることにより、売上高は94,000百万円(前回予想93,500百万円)、営業利益は6,600百万円(前回予想6,000百万円)、経常利益は6,400百万円(前回予想5,800百万円)、当期純利益は3,000百万円(前回予想2,500百万円)へそれぞれ上方修正しております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

- ①「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用
第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分)および「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日)を適用しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の経常利益および税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

- ②「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益はそれぞれ26百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は335百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,432	19,505
受取手形及び売掛金	10,625	10,240
有価証券	11,407	10,005
商品及び製品	3,246	3,048
仕掛品	27	40
原材料及び貯蔵品	3,082	3,103
その他	2,266	2,316
貸倒引当金	△250	△233
流動資産合計	46,837	48,027
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,916	22,331
減価償却累計額及び減損損失累計額	△12,486	△11,719
建物及び構築物(純額)	10,430	10,612
機械装置及び運搬具	5,694	5,491
減価償却累計額及び減損損失累計額	△4,659	△4,421
機械装置及び運搬具(純額)	1,035	1,069
工具、器具及び備品	6,180	6,011
減価償却累計額及び減損損失累計額	△5,148	△5,099
工具、器具及び備品(純額)	1,032	911
土地	10,903	10,971
リース資産	286	263
減価償却累計額及び減損損失累計額	△163	△115
リース資産(純額)	122	148
その他	86	83
有形固定資産合計	23,610	23,797
無形固定資産		
のれん	426	511
その他	3,088	2,602
無形固定資産合計	3,514	3,114
投資その他の資産		
投資有価証券	12,444	11,928
その他	6,884	6,116
投資その他の資産合計	19,329	18,044
固定資産合計	46,453	44,956
資産合計	93,291	92,983

(単位:百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,331	3,357
未払法人税等	989	2,314
賞与引当金	501	1,050
ポイント引当金	1,387	1,352
資産除去債務	7	—
その他	5,299	4,690
流動負債合計	11,516	12,765
固定負債		
退職給付引当金	2,120	1,946
役員退職慰労引当金	95	80
資産除去債務	478	—
その他	518	595
固定負債合計	3,211	2,622
負債合計	14,728	15,387
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	11,706	11,706
利益剰余金	55,978	55,065
自己株式	△306	△336
株主資本合計	78,173	77,230
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12	10
為替換算調整勘定	—	△103
評価・換算差額等合計	12	△93
新株予約権	377	342
少数株主持分	—	116
純資産合計	78,563	77,596
負債純資産合計	93,291	92,983

(2) 四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	76,662	71,885
売上原価	25,489	24,396
売上総利益	51,172	47,489
販売費及び一般管理費	44,460	41,937
営業利益	6,712	5,551
営業外収益		
受取利息	71	62
受取配当金	13	19
雑収入	191	84
営業外収益合計	277	165
営業外費用		
支払利息	8	—
持分法による投資損失	—	188
為替差損	83	53
貸倒引当金繰入額	80	—
雑損失	55	31
営業外費用合計	229	274
経常利益	6,760	5,443
特別利益		
固定資産売却益	0	4
投資有価証券売却益	0	—
貸倒引当金戻入額	1	—
補助金収入	—	15
負ののれん発生益	—	51
その他	0	1
特別利益合計	2	72
特別損失		
固定資産売却損	2	19
固定資産除却損	18	20
減損損失	14	54
店舗閉鎖損失	32	75
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	309
その他	21	83
特別損失合計	88	563
税金等調整前四半期純利益	6,674	4,951
法人税、住民税及び事業税	2,957	2,018
法人税等調整額	△60	176
法人税等合計	2,896	2,194
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,757
少数株主利益又は少数株主損失(△)	712	△1
四半期純利益	3,064	2,758

第3四半期連結会計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	28,978	26,109
売上原価	8,786	8,505
売上総利益	20,192	17,603
販売費及び一般管理費	16,606	14,640
営業利益	3,585	2,963
営業外収益		
受取利息	23	18
受取配当金	1	0
雑収入	106	24
営業外収益合計	132	43
営業外費用		
支払利息	4	—
為替差損	35	15
貸倒引当金繰入額	5	—
雑損失	16	8
営業外費用合計	60	24
経常利益	3,657	2,982
特別利益		
固定資産売却益	0	3
貸倒引当金戻入額	0	—
補助金収入	—	15
負ののれん発生益	—	51
その他	—	0
特別利益合計	0	70
特別損失		
固定資産売却損	—	19
固定資産除却損	5	7
減損損失	—	41
店舗閉鎖損失	10	12
その他	14	5
特別損失合計	30	86
税金等調整前四半期純利益	3,628	2,967
法人税、住民税及び事業税	1,294	897
法人税等調整額	102	288
法人税等合計	1,396	1,185
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,781
少数株主利益	709	—
四半期純利益	1,522	1,781

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,674	4,951
減価償却費	2,365	2,179
減損損失	14	54
株式報酬費用	54	65
のれん償却額	529	85
貸倒引当金の増減額(△は減少)	90	14
賞与引当金の増減額(△は減少)	△547	△548
ポイント引当金の増減額(△は減少)	37	35
退職給付引当金の増減額(△は減少)	81	173
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	11	14
受取利息及び受取配当金	△85	△81
支払利息	8	—
為替差損益(△は益)	△72	60
持分法による投資損益(△は益)	—	188
投資有価証券評価損益(△は益)	6	5
固定資産売却損益(△は益)	1	15
固定資産除却損	18	20
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	309
売上債権の増減額(△は増加)	△367	△384
たな卸資産の増減額(△は増加)	△56	△163
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△4	△228
その他の固定資産の増減額(△は増加)	—	△209
仕入債務の増減額(△は減少)	1,095	△26
その他の流動負債の増減額(△は減少)	504	589
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△98	△51
その他	24	68
小計	10,288	7,139
利息及び配当金の受取額	59	78
利息の支払額	△8	—
法人税等の支払額	△3,065	△3,569
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,274	3,648

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	1,500	1,000
有価証券の取得による支出	△4,496	△5,995
有価証券の売却及び償還による収入	4,997	5,499
有形固定資産の取得による支出	△985	△1,258
有形固定資産の売却による収入	28	65
無形固定資産の取得による支出	△482	△1,085
投資有価証券の取得による支出	△1,014	—
投資有価証券の売却及び償還による収入	506	0
関係会社出資金の払込による支出	—	△600
関係会社株式の取得による支出	△529	△172
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,210	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	178	—
貸付けによる支出	△161	△95
貸付金の回収による収入	37	13
その他の支出	△265	△101
その他の収入	113	203
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,783	△2,526
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	408	—
短期借入金の返済による支出	△473	—
長期借入金の返済による支出	△155	—
社債の償還による支出	△180	—
自己株式の処分による収入	4,140	0
自己株式の取得による支出	△1	△0
配当金の支払額	△2,054	△2,185
少数株主への配当金の支払額	△1,159	—
その他	△54	△55
財務活動によるキャッシュ・フロー	469	△2,241
現金及び現金同等物に係る換算差額	200	△50
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,161	△1,170
現金及び現金同等物の期首残高	26,732	25,010
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,894	23,840

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	15,228	8,320	5,429	28,978	—	28,978
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	15,228	8,320	5,429	28,978	—	28,978
営業利益	3,088	792	16	3,897	(312)	3,585

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

(1) 化粧品関連事業……………各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売

(2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売

(3) その他事業……………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業、エステ事業他

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	40,140	21,848	14,672	76,662	—	76,662
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	40,140	21,848	14,672	76,662	—	76,662
営業利益又は営業損失(△)	6,159	2,128	△381	7,907	(1,195)	6,712

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

(1) 化粧品関連事業……………各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売

(2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売

(3) その他事業……………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業、エステ事業他

3 セグメント別資産の著しい金額の変動

第2四半期連結会計期間においてFantastic Natural Cosmetics Limited およびその連結子会社1社ならびにFantastic Natural Cosmetics (China) Limited およびその連結子会社2社を連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度末に比べて資産が著しく増加しております。その主な要因はのれんであり、化粧品関連事業6,376百万円、栄養補助食品関連事業3,164百万円、その他事業12百万円それぞれ増加しております。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	24,054	4,924	28,978	—	28,978
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,857	—	1,857	(1,857)	—
計	25,911	4,924	30,836	(1,857)	28,978
営業利益	3,044	828	3,872	(286)	3,585

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国または地域
 アジア……………中国(香港含む)、シンガポール
 3 従来、本邦の売上高が全セグメントの売上高合計額に対し90%を超えていたため、所在地別セグメント情報の記載を省略しておりました。しかし、第2四半期連結会計期間末に連結範囲に含めた在外子会社の業績が第3四半期連結会計期間より含まれたことにより、本邦以外のセグメントの重要性が高まったため、所在地別セグメント情報を開示しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	68,242	8,419	76,662	—	76,662
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,574	—	4,574	(4,574)	—
計	72,816	8,419	81,236	(4,574)	76,662
営業利益	6,289	1,115	7,404	(692)	6,712

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国または地域
 アジア……………中国(香港含む)、シンガポール
 3 従来、本邦の売上高が全セグメントの売上高合計額に対し90%を超えていたため、所在地別セグメント情報の記載を省略しておりました。しかし、第2四半期連結累計期間末に連結範囲に含めた在外子会社の業績が第3四半期連結累計期間より含まれたことにより、本邦以外のセグメントの重要性が高まったため、所在地別セグメント情報を開示しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	4,913	11	4,924
II 連結売上高(百万円)	—	—	28,978
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	17.0	0.0	17.0

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国または地域
 (1) アジア……………中国(香港含む)、シンガポール、台湾
 (2) その他の地域……米国
 3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。
 4 従来、海外売上高は連結売上高の10%未満であったため記載を省略しておりましたが、第3四半期連結会計期間より重要性が増したため、海外売上高を開示しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	8,327	92	8,419
II 連結売上高(百万円)	—	—	76,662
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.9	0.1	11.0

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国または地域
 (1) アジア……………中国(香港含む)、シンガポール、台湾
 (2) その他の地域……米国
 3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。
 4 従来、海外売上高は連結売上高の10%未満であったため記載を省略しておりましたが、第3四半期連結累計期間より重要性が増したため、海外売上高を開示しております。

[セグメント情報]

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。なお、従来開示しておりましたセグメント情報の事業の種類による区分方法および測定方法は、マネジメント・アプローチによるセグメントの区分方法および測定方法と同一であります。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当企業集団の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当企業集団は、化粧品および栄養補助食品の製造販売を主とした多岐にわたる事業を営んでおります。当社および当社の連結子会社には、単一製品の製造に従事する会社だけでなく複数製品の製造販売を営んでいる会社もあり、当企業集団としては取り扱う製品ごとに国内および海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当企業集団は取り扱う製品を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「化粧品関連事業」および「栄養補助食品関連事業」の2つを報告セグメントとしております。

「化粧品関連事業」は、化粧品の製造販売およびOEM供給を行っております。「栄養補助食品関連事業」は、栄養補助食品の製造販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	36,749	21,205	57,955	13,930	71,885	—	71,885
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	36,749	21,205	57,955	13,930	71,885	—	71,885
セグメント利益又は損失(△)	5,460	1,697	7,158	△335	6,822	△1,271	5,551

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業、エステ事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△1,271百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等にかかる費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	化粧品 関連事業	栄養 補助食品 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,992	8,129	21,122	4,986	26,109	—	26,109
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	12,992	8,129	21,122	4,986	26,109	—	26,109
セグメント利益	2,422	911	3,333	23	3,357	△394	2,963

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業、エステ事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△394百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれており、その主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社本社の総務部門等にかかる費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。